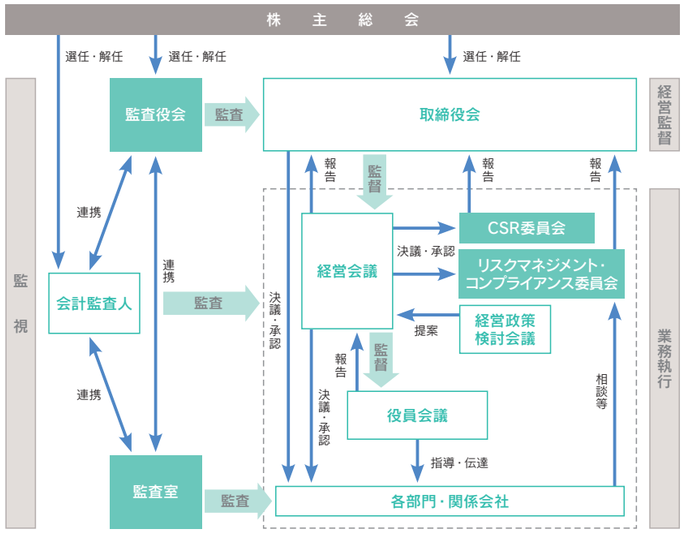
06 CSRマネジメント

コーセーグループ社員は正しいことは何かを見つめながら「正しきことに従う心」をもって、倫理に即した行動に徹します。法令・社会的規範を遵守し、関わる全ての人々の人権を尊重し、お客さまをはじめ広く社会から支持される、誠実で誠意のある企業であり続けることを目指しています。

コーポレートガバナンス体制の構築

コーセーグループはすべての役員、従業員が高い企業倫理観に基づいたコンプライアンス経営を実践するとともに、ステークホルダーとの共生を重要な経営課題ととらえ、透明性、公正性の高いコミュニケーションを図っています。そのため、取締役会と監査役会により業務遂行の監督・監視を行う監査役制度を採用しています。また業務遂行の効率化のため執行役員制度を導入、経営会議を設置して経営の重要事項を協議しています。なお、リスク対応とコンプライアンスの実践・確保のために「リスクマネジメント・コンプライアンス委員会」を、CSRマネジメント全般のために「CSR委員会」を設置しています。また一部の株主や利害関係者の利益に偏ることのない、社外取締役1名、社外監査役2名を選任しています。

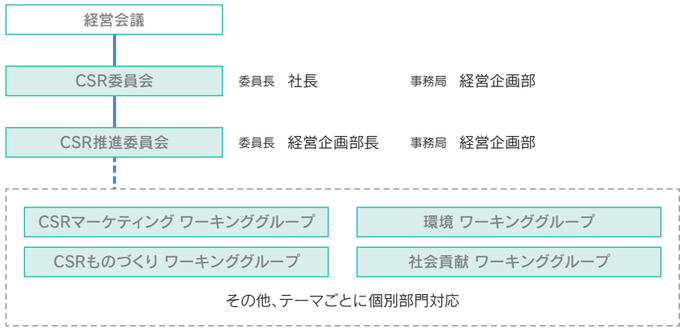
コーポレートガバナンス体制図



CSR推進体制

コーセーでは、1997年に「地球環境委員会」を組織し、生産現場で廃棄物を実質的になくす「ゼロエミッション」や、非生産部門を含めたエコ活動を進めてきました。2013年度からは、社長を委員長とする「CSR委員会」および実務推進を担う「CSR推進委員会」をスタートし、企業メッセージ「美しい知恵　人へ、地球へ。」に即したCSR活動を進めています。

コーセーCSR推進体制図



リスクマネジメントとコンプライアンスの啓発

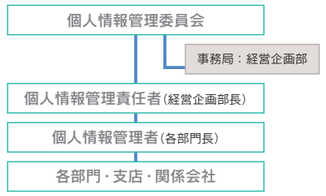
2005年より配布している「コーセーグループ行動指針」では、コーセーで働くすべての従業員に対し、法令を遵守し、社会規範を守り、常に誠実で良識ある判断と行動をとるよう明文化しています。本指針は、人事研修の一環として、国内の新入社員への教育資料として使うほか、海外でも5言語に翻訳し、海外現地従業員へ配布しています。

定期的なコンプライアンス研修も継続して行っており、2014年度は、個人情報の保護と漏えい防止について、国内主要グループ11社で2,571名、海外8拠点の現地従業員308名がe-ラーニングで受講（対象者の100%、休業者除く）したほか、生産部門で働く約450名はテキストで受講しました。全国の美容スタッフ約5,000名に対しては、年6回発行の教育用印刷物に、個人情報等の取扱いに関する身近な題材を取り上げ、継続的に啓発教育をしています。

情報セキュリティ

IT化の進展とともに、個人情報保護対策の重要性が高まっており、リスクマネジメントにおける重要な課題としてとらえています。2014年度は、2005年に策定した個人情報保護管理規程を改定し、より実態に即した内容としました。具体的には、個人情報管理者の設置による管理体制の強化、個人情報データ保有台帳の作成、管理マニュアルと漏洩報告経路の改定と徹底を行いました。個人情報の適切な管理について周知・徹底を進めています。

個人情報保護管理体制



CSR活動目標決定プロセス

1. 社会課題の洗い出し
ISO26000を用いて当社が取組むべき課題の洗い出しのべ約30部門50名参加

2. CSR活動目標の作成
重要テーマ6項目に分類。社外有識者によるチェック

3. 経営層からの承認
CSR委員会に①②を報告してCSR活動目標の承認

4. CSR活動目標の見直し
今後は定期的に見直しを図りCSR活動の向上を目指す

社外からの評価

今回、同社にとって重要なCSR課題を選定し、活動テーマや中期目標をまとめました。課題の洗い出しや目標の策定には、さまざまな部門の多くの社員が参加しており、作成のプロセス自体が、社内へのCSRの意識付けと各部門の行動につながるCSR活動ともいえ、高く評価できます。今後大切なのは、これを着実に実行していくことです。具体的な活動計画を立て、実績を検証・評価し、PDCAを回しながら、活動を続けていくことが重要です。各課題の関係性も考えながら、部門間での情報共有や連携を図りつつ活動を進めていくことが求められます。

今年で7年目を迎える「SAVE the BLUE」プロジェクトは、コンセプトが明確な、まさにコーセーらしい活動といえます。今後も、コーセーグループとして、「美しい知恵　人へ、地球へ。」を実現する活動を展開されていくことを期待します。

株式会社
インテグレックス
代表取締役社長
秋山 をね 氏

慶應義塾大学経済学部卒業。ファイナンス修士。2001年に、SRI（社会責任投資）およびCSRの推進を行う株式会社インテグレックスを設立、代表取締役に就任。